

January

1

- 3[月] 豊橋ニューイヤーズコンサート◎PLAT主ホール
8[土] プラットワンコインコンサート こてまりデュオ「チューバとピアノで巡る20世紀」
◎PLATアートスペース
15[土]—16[日] 二兎社『鷗外の怪談』◎PLAT主ホール
16[日] 西垣恵弾 ピアノ & ヴァイオリンコンサート◎PLATアートスペース
22[土] 第9回桜丘高等学校・ダンス部自主公演「I LOVE YOU」◎PLAT主ホール
22[土] なごやかあな こんさ〜と◎PLATアートスペース
23[日] 豊橋落語天狗連 第8回新春天狗連名人会?◎PLATアートスペース
25[火] 人を育てる 街を育てる◎PLAT主ホール
豊橋演劇鑑賞会 第288回例会 劇団 NLT 公演『OG』◎PLAT主ホール
29[土]—30[日] PLAT小劇場シリーズ
水戸芸術館 ACM 劇場&ラ コンチャン近藤芳正 Solo Work『ナイフ』
◎PLATアートスペース
30[日] 第20回とよはしまちなかスロートウン映画祭
オープニングイベント 役所広司 シネマ&トーク◎PLAT主ホール

February

2

- 5[土]—6[日] 令和3年度 東三河高等学校演劇合同発表会
◎PLAT主ホール
5[土] 第20回とよはしまちなかスロートウン映画祭
スロートウンアフターアワーズ「街の上で」ライブ副音声上演
◎PLATアートスペース
5[土]—6[日] 第20回とよはしまちなかスロートウン映画祭
スロートウンシネマ◎PLATアートスペース
12[土]—13[日] 令和3年度 東三河高等学校演劇合同発表会
◎PLATアートスペース
12[土] 第20回とよはしまちなかスロートウン映画祭
スロートウンアフターアワーズ
「Arc」特別上映シネマ&トーク
◎PLATアートスペース
12[土]—13[日] 第20回とよはしまちなかスロートウン映画祭
スロートウンシネマ◎PLATアートスペース
15[火]—18[金] 令和3(2021)年度 ステージラボ豊橋セッション
◎PLAT主ホールほか
19[土] とよはしまちなかスロートウン映画祭20周年記念
ビーター・バラカン Special
◎PLATアートスペース
19[土]—20[日] 第20回とよはしまちなかスロートウン映画祭
スロートウンシネマ◎PLATアートスペース
20[日] あゆちウインドオーケストラ 第3回定期演奏会◎PLAT主ホール
23[水・祝] 映画「愁いの王 宮沢賢治」上映会◎PLATアートスペース
26[土] 第20回とよはしまちなかスロートウン映画祭
スロートウンアフターアワーズ「アメイジング・グレイス アレサ・フランクリン」
〈手を叩き足を踏み鳴らす〉参加型上映◎PLATアートスペース
26[土]—27[日] 第20回とよはしまちなかスロートウン映画祭
スロートウンシネマ◎PLATアートスペース

公益財団法人
豊橋文化振興財団情報誌
2022年1月—2月

vol. 53



TOYOHASHI
ARTS
THEATRE
PLAT

PLAT NEWS

CONTENTS

表紙

『鷗外の怪談』松尾貴史

2

INTERVIEW:1

二兎社『鷗外の怪談』

明治の空気を面白がっていただきたい。

松尾貴史

4

INTERVIEW:2

近藤芳正 Solo Work『ナイフ』

必死にあがっている姿が、誰かの心に届けばと。

近藤芳正

6

INTERVIEW:3

大阪フィルハーモニー交響楽団

特別演奏会

大フィルは

自分たちの音を持っている。

沼尻竜典

8

INTERVIEW:4

inc. percussion days

2022 inTOYOHASHI

素晴らしいものを

いい形で演奏して、

残していく。

加藤訓子

10

プラットワンコイン

コンサート

ワンコイン(500円)で

楽しめる、

若手音楽家たちの

上質をコンサート

12

INFORMATION

PLAT

主催公演情報

14

PURA PURA

バラコの寄り道ぶらぶら 桑原裕子

アレ、があぶり出したもの

15

SUPPORT

TICKET CENTER

裏表紙

加藤訓子

『inc. percussion days』

PLAT CALENDAR



聞き手 矢作勝義 穂の国とよはし芸術劇場PLAT 芸術文化プロデューサー

明治の空気を面白がっていたらきたい。松尾貴史 出演



松尾貴史[まつお・たかし]
／兵庫県出身。大阪芸術大学芸術学部デザイン学科卒業。俳優、タレント、ナレーター、コラムニスト、“折り顔”作家など幅広い分野で活躍。近年の出演作品にテレビドラマ『獣になれない私たち』(NTV)、『インハンド』(TBS)、『ハマラアキラ〜世界で最も不運な探偵〜』(NHK)、ミュージカル『マイ・フェア・レディ』(G2演出)など。二兎社「ザ・空気 ver.2 誰も書いてはならぬ」では政権べつたりの保守系全国紙論説委員を好演し、読売演劇大賞優秀男優賞を受賞。

1月15日[土]・16日[日]13:00開演

作・演出=永井愛

出演=松尾貴史、瀬戸さおり、味方良介、瀨野右登、木下愛華、池田成志、木野花

会場=PLAT主ホール

あの人は誰にも心の内を見せない

一緒にいればいるほどどういふ人だかわからなくなる

二兎社『鷗外の怪談』

矢作—— 前回、2018年に二兎社『ザ・空気 ver. 2』でお越しいただき、今回『鷗外の怪談』で豊橋にお越しいただくのは2回目、永井さんの演出もこれで2回目でしょうか。

松尾—— 大勢で、ボランティアで朗読会をやったときに参加させていただき、総合演出が永井さんだったので、広い意味では3回目ですね。

矢作—— 永井さんの演出の魅力というのは、どういった点でしょうか。

松尾—— 稽古が進んでいくと、表面的なことと違う、深いところが発見できる所と、永井さんがさらに説明をしてくれて、なるほど、とわかるという、重層的な発見が途切れず、ほんとに満遍なく、多分稽古の終盤に近づくにつれ、また発見も多くなるだろうという気がします。

矢作—— 今回は、松尾さんが森鷗外という、具体的な歴史を背負っている存在を演じるにあたって、どのようなことを意識して取り組もうとしていらっしゃるのでしょうか。

松尾—— 自分の中に一つ確立した、文化的、あるいは思想体系がしっかりしている人を演じる重みをどうやって見せればいいのか、面白いですが、すごく難しいところですね。

サイエンスとアートの中の、振れ幅の大きい人を面白くやらせていただいています。科学的なこと、イメージネーションとか、怪しげなもの、あるいは社会的なこと、作家というか、表現者としての多角形を作ると、全部の角までグラフが伸びているような人という気がします。夏目漱石だと、科学のほうはベコっとへこんでいる。でも、鷗外は全部に、多角形がバランスよく広がっている。

矢作—— 今回描かれている時代と状況について、どのような点が面白いと思われますか。

松尾—— やはり時代の必然として、ドラマとか衝突とか、共鳴が生まれ、ドラマができていくという感じがします。だから、生活様式から価値観から、思想的なことから、もう激変した時期に、翻弄された人々が、書物で取り締まられる。古本屋ですら、官憲というか、警察官が入ってきて、「禁止、禁止」と言っ、物を押収したりとかね。そういう時代と、今は全然違うなと思いたいが、似たようなことが全く別の形で起きているという恐怖を感じる。なんらかの共通点なのか、不安感をご覧になった方が、想像力豊富にさせていただいて、明治の話だけど、臨場感がある効果が出たらうれしいなと思いますね。

矢作—— 『鷗外の怪談』の初演が2014年にツアーされているのですが、より今の時代にリアルに感じられます。

松尾—— 物語の中にも、司法のキーパーソンがマスコミの人たちに書いてくださるなど頼んだり、行政の人が司法に口出しをしたり、この令和の時代でも、三権分立が怪しくなっている。今もそんな時代なのかと思う人が、ご覧になっている方から出てくるかなという気がします。

矢作—— 永井さんは、時代のカラーを描きつつも、嫁姑や息子と母親などの対立を軸にしながらかみカルに描き、それを今の時代にうまく投影しています。

松尾—— コミカルなところも、諧謔と云うのですか。ただユーモラスだったり、コミカルだったりするおかしみではなく、クスとしながらも不安にさせる何か、世界観の中に色濃いと云うのです。

矢作—— 今回、共演される皆さんの魅力はどうお感じになっていらっしゃるのでしょうか。

松尾—— 木野花さんは大女優で、大ベテランだし、演劇集団をずっと引っ張ってこられた方だし、学ばせていただくことが多いですね。池田成志さんも表現も多様だし、技ではなく、生き物として言葉を発していらっしゃる、動きも面白い。瀬戸さおりさんは、若いけど達者ですね。エネルギッシュだし、造作もキレイです。木下愛華さんは勉強熱心で、疑問があると聞きに来たり、相談に来たり、意欲的になっています。味方良介さんはスマートだし、後半に永井荷風のキャラクターが少し変わるところなんか、ものすごく面白い感じになっています。瀨野くんは、誠実に取り組んでいて、すごく巧みになっていく様子に若さを感じます。

矢作—— 森鷗外自身の魅力というのはどこにあると思われませんか。

松尾—— 多面性と、内側の人格の大黒柱があるとしたら、それがきつと不定形なのだろうなという気がする。1本ずんつと通っているのではなく、それが、例えば螺旋形であつたり、ランダムに歪んでいたり、でもしっかりし、しなやかなのかな。そういう気がします。

矢作—— 様々な地域で公演をするとき、どういったところに面白みを感じられたりしますか。

松尾—— 僕は、普段住んでいないところに行くと、まずカレー屋に行く。それと、お客さんの反応とかが地域によって違うのを、なんとなく、こちらの街はあつたかい、こちらの街は感度が高いな、こちらのお客さん元気だなとか、そういうことを発見しながらやっているのはすごく楽しい。旅行がしにくいような期間が続いたから、なおさら地方公演に行けるのは、それだけで高揚します。

矢作—— 最後にぜひ、豊橋のお客さまに一言コメントいただければと思います。

松尾—— 東海道なので、きつと古くからのいろんなものが残っているという場所だと思います。おじいちゃん、ひいおじいちゃん、おばあちゃんあたりの世代のことだし、旧家とか、あるいは代々続く名士のお店やお家などもあるでしょうし、知り合いにもそういうお家はいっぱいあるでしょうから、明治の空気みたいなものを感じてもらえるという気はしますね。そこを面白がっていただけたら、さらに楽しいのではないかと思います。

矢作—— ありがとうございます。豊橋を楽しんでいただければと思います。お待ちしております。



必死にあがいている姿が、誰かの心に届けばと。近藤芳正

出演

1月29日[土]18:00開演・30日[日]14:30開演
 原作＝重松清『ナイフ』(新潮文庫刊「ナイフ」所収)
 脚本・演出＝山田佳奈
 フィジカルコーチ＝大石めぐみ
 出演＝近藤芳正
 会場＝PLAT アートスペース
 PLAT 小劇場シリーズ

水戸芸術館ACM劇場／ラコンチャン 共同製作

近藤芳正 Solo Work 『ナイフ』

私はナイフを持っている。私はこのナイフで生き延びる。

今年の公演が延期となりましたが、今回の公演が実現となったことへの近藤さんの思いをお聞かせください。

近藤—— コロナ禍でしたが京都に移り住んだり、結婚したりとか、思いっきり生活環境が変わりました。延期と聞いた時、道を歩いている自分がいて、稽古をしたものが出来なくなるのはキツイというのと、環境の変化が大きく自分に影響を及ぼしていたこともあり、とりあえずコロナが落ち着くまでは舞台をやらなくておこうと思うようになりました。1回離れてどうなるのか、自分自身観察しながらやっています。東京だと真ん中にいるので、舞台に対して冷静に見えていない部分もある。京都では、演劇どころか歌舞伎さえ見たことない人たちがいっぱいいる。思っている以上に浸透していない、趣味的な商売なのだと改めて思いました。そこを今整理しつつ、臨ませてもらうことができるということで、いい意味で新鮮です。

舞台から離れるという決断は、怖くはなかったのですか。
 近藤—— 怖くはなかったですね。こだわっていたものが一気になくなりました。役者を続けていくことも必須ではなくなって。遅ればせながら仕事は仕事、生きていくうちの一部だけど全部ではないと考えるようになりました。結婚をすることになって、愛情を育てるとか友情を育てるとか、僕が欠けているのはそこだと思って。今それを一生懸命修復しているところです。

今稽古を前にして、芝居ができる喜びみたいなものはありますか。

近藤—— 心がフラットで、どこか冷静にいる自分がいます。そこは本当に変わりました。前は「やりたいやりたい」と前かがみなところがありましたが、それがなくなっています。でも、前よりは体は動く気がするし、悪くはないと思います。「よしやってみよう」というよりも「やらせてもらえるのなら是非」という感じです。

価値観が変わったことで『ナイフ』という作品の捉え方はどう変化しましたか。

近藤—— 役者は技術だけではないので、多分、コロナ前よりは何かが増えて、感情豊かになっていると思います。コロナで思うようにならない中で、自分の生き方を自然ととき落としていったところがありました。これがどう出るのか、多分稽古していった気配りでいくのでしょうね。コロナを乗り越えて、環境が変わった中で、前と違って引つかかる言葉とかシーンは、ございますか。

近藤—— 世の中の流れが一気に早くなり、自分の考え方もクルクル変わっていて、正直言うと、1月まででどういう状況になっているか分からないです。『ナイフ』を選んだのは、弱いくせに強がり、弱いことを認めたくないところに僕自身惹かれるところがあったからですが、その根っこは変わらないと思います。

あとは、脚本・演出家の山田佳奈さんとフィジカルコーチの大石めぐみさんと3人で作り上げていくので、その2人がどう僕を動かすことになるのか、ということだと思います。多分僕は、稽古中はまったく冷静に自分を

見ることができないと思うので。

重松清さんという作家のおもしろさ、奥深さというのはどのあたりでしょうか。

近藤—— 弱者の味方であるということですね。あの方自身が吃音で苦労されたこともあり、その立場に親身になって立っていますよね。また、どこか少年のような、子ども心をずっと持ち続けている。少年の心理描写がすごく上手で、読んでいて自分の子どものころをグッと思い出させるのです。そこが素晴らしい。

1年前よりも体に自信があるということですが、特別にフィジカルトレーニングをされたのですか。

近藤—— いろいろとやっていますが、今は毎日、四股を30～50回やっています。40歳ぐらいの時からずっとやっている呼吸体操とか。体を緩めることとか、気になったことはやっています。下半身への意識がどうしてもおろそかになるので、意識を下に下げるためにつま先立ちとかもしています。人前に出る商売ですので、そうすると心身が安定するんです。あと呼吸も意識しないと忘れるので、なるべく吐いたり吸ったり。コロナの時は、瞑想プログラムもすごくやりました。

リモートで見るのもおもしろいですが、やはり生で見たいという気持ち大きいのですが、劇場で上演できるというのはいかがですか。

近藤—— 配信で『12人の優しい日本人』を読む会、をみんなでやって、あれはあれで最高に楽しかったので配信でお芝居の生きる道もあるのではないかと、本多劇場グループPRESENTS『DISTANCE』で無観客配信の一人芝居をやって、「いや、違うな」これは別物だと思いました。お客さんと接しているおもしろさが舞台のすごさで、100人でも50人でも30人でもいいから、お客さんが目の前にいるのが、やはり舞台を成立させるものなのだと思います。

リアルに見に来ていただけるお客さんに対して、どのような姿を舞台に乗せたいと思われているのでしょうか。

近藤—— 人間って、もったいい解決策があるのに思いつかず、常にあがきますよね。必死に登場人物三人三様にあがっている姿が、誰かの心に届けばと。一人芝居は決して楽なものではないし、3つの役を大して体の動かない人が、あがきながら演じている。それを見てもらうことで、人によって受け取り方は違うのですが、生きるヒントとか、生きる勇気とか、1日でも一瞬でもいいから、フッと楽になっていただける瞬間があったら、やる側としてはこれ以上の幸せはないと思います。

豊橋についての印象をお願いします。

近藤—— 僕は名古屋出身で同じ愛知県民なのですが、当たり前ですが、いい意味で豊橋は、名古屋とは別の文化がある。すぐお祭り好きでカーッと燃え上がったりとか。ここで生まれた文化を大事にしようとしているのが、市民たちから伝わってきます。豊橋はしばらくぶりなので楽しみです。懐かしの人たちにもいっぱい会え、同窓会みたいになるといいなと思っています。

ありがとうございました。

近藤芳正[こんどう・よしまさ] / 愛知県出身。東京サンシャインボーイズに欠かせぬ客演俳優として脚光を浴び、現在はテレビ・映画・舞台と活躍。あらゆる役に深く踏み込む演技力と表現力に定評がある。2001年には自身がプロデュースする「劇団ラコンチャン」を立ち上げ、現在は「ラコンチャン」として舞台制作やプロデュース作品も手掛け、作・演出にも関わっている。

大フィルは自分たちの音を持っている。沼尻竜典

聞き手 福山修 大阪フィルハーモニー交響楽団事務局長

指揮

2月5日[土]16:00開演

出演＝沼尻竜典[指揮]、松田華音[ピアノ]、大阪フィルハーモニー交響楽団

会場＝ライブポートとよはし コンサートホール

21世紀の楽壇を担う実力派指揮者沼尻竜典と
ロシアが育んだ期待の若手松田華音によるほとぼしる情熱の調べ

大阪フィルハーモニー交響楽団 特別演奏会

福山—— まずは演奏する曲についてマエストロにお聞きしたいと思います。1曲目はワーグナーの「さまよえるオランダ人」序曲ですが、このオペラはもう何度もやっていますね。

沼尻—— はい、オペラの全曲はドイツのリューベックや神奈川、びわ湖ホールなどで演奏しています。今回演奏する序曲についてお話ししますと、「さまよえるオランダ人」はワーグナーが書いたオペラの中ではあまり編成が大きいので、この序曲は演奏会の1曲目にしやすいのですが、ワーグナーのエッセンスが凝縮された曲ですね。荒れた海で、永遠に海をさまよう呪いを受けたオランダ人の船長が、ゼンタという女性に出会い救われるというお話ですが、この序曲を聴けば2時間半ぐらいのオペラで起こることが大体わかります。大フィルの豪快な鳴りっぷりに相応しい、非常に迫力のある曲なので、ここからワーグナーに興味を持っていただけるかなと思って演奏することにしました。

福山—— 2曲目のラフマニノフの「ピアノ協奏曲第2番」についてもお聞かせください。

沼尻—— ラフマニノフはピアノの名手でありながら作曲技術も一流でした。ピアニストとしても一流だった人が書いた曲というのは、本当におもしろいのです。ラフマニノフの曲はピアノとオーケストラ、両方のパートの手が込んでいて、しかもよく鳴る。両者がお互い高め合うような相乗効果があり、非常に深く、華やかな一曲です。

彼はロシアの作曲家ですが、ロシアのピアノリズムは独特なので、ロシアで研鑽を積んだ松田華音さんの演奏も楽しみです。

福山—— 休憩を挟んで、3曲目はドヴォルザークの交響曲「新世界より」ですね。

沼尻—— この曲は指揮者にとって怖い曲です。いろんな指揮者がよくやる曲だから逆に緊張しちゃいます。ですが、それだけ人気の理由がある。やっぱりよくできるわけ、ドヴォルザークの最後の交響曲ですから。彼がアメリカに渡ったことや、それによる望郷の念が色濃く出ていて、この曲には色んなエピソードが込められています。

福山—— 日本人にはドヴォルザークの作品はすごく入りやすいですよ。

沼尻—— そうですね。日本の民謡で使う「ヨナ抜き」の音階のような旋律が出てくるのがあって、シンパシーを感じますね。とにかくメロディーがまず魅力的だし、割と歌える音域で書いてある。例えば「新世界より」の第2楽章は、日本語の歌詞がつけられて「家路」という曲名で親しまれている。最初の4小節、4種類の音だけであれだけのテーマを書ける才能はすごい。第3楽章のトライアングル活躍も楽しいし、第4楽章で一発だけのためにずっと待ってるシンバルの一球入魂も良い。どの楽章もそれぞれが名曲揃いです。

福山—— 生のオーケストラはどんなふうに楽しむのが良いのでしょうか。

沼尻—— とにかく、そこでやっていることは1回きり。音楽は消えてしまうから、その時に、その場に居た人しか体験できない音がある。配信で音楽を聴くことも今の時代の楽しみ方のひとつだけど、空間を震わせている楽器と同じ空気が、そのまま音として身体に伝わってくる味わいは配信ではどうしても得られない。もしかしたら弦が切れたり、指揮棒が飛んでいくとか、普通ではなかなか見られないことが起こるのもライブのおもしろさです。

福山—— マエストロはお客さまに背を向けて指揮をされるわけですが、会場の空気を背中で感じるのですよね。

沼尻—— 多分オーケストラの人も一緒に、お客さまの雰囲気を感じ取りながら、演奏がその場でできていきます。

それが生で聴いていただくおもしろさです。事前にリハーサルはしていても、当日会場に着いてからみんなで音を出して、このホールだったらこういう響き方をするから弾き方を少し変えたほうが良いとか、音量を大きすぎないように気をつけましょうとか、会場に合わせた音の調整も当日やるわけです。さらに言えば、お客さまの人数や、着てらっしゃる服とかでも、少し響きが変わったりとかね。毎回同じことをただ弾いているだけではないですし、そういうことも含めて、生の音楽のおもしろさがあると思います。

福山—— マエストロは長く海外で振っていらっしゃるのですが、日本のオーケストラとの違いはどのように感じますか。

沼尻—— いろいろ違いはありますが、日本の場合は日本人の楽員さんがほとんどで、いろんなことが以心伝心で伝わりますよね。しかし、外国のオーケストラでは、言いたいことは言わなければいけない。だが一方で、ドイツのオーケストラの楽員さんは、ほとんどがドイツの音大を出ていて学んだスクールやメソッドが似ている。日本では人種的には日本人が多いけれど、学んだ土地が全然違う。例えばハーブとクラリネットはフランス、バイオリンやトロンボーンはアメリカとドイツで学んだ人が混じっていたり。それでまた逆にカラフルになって、いろんな意見が出てくるからおもしろいですね。今回演奏する曲はどれもドラマティックなので、魅力的な個性をもつ大フィルの良さが出せる演奏会になると思っています。

福山—— 理屈抜きで、マエストロが振られる大フィルは豊かに響きます。指揮者によって音が全然違います。

沼尻—— オーケストラが自分たちの音を持っているのと同じように、指揮者も自分の音を持っていないといけない。それが合わさった時にスパークして、その組み合わせだからこ生活み出せる独特の音になるのです。例えばモーツァルトの作品は、どこを切ってもモーツァルトでありつつ、作品ごとのカラーもある。大フィルは、そういうおもしろさを持っているからファンが多いのだと思います。今回は大フィルを豊橋の皆さんが近場で聴けるチャンスだから、ぜひぜひライブポートに来て、聴いていただきたいと思っています。

沼尻竜典[ぬまじり・りゅうすけ]／びわ湖ホール芸術監督、トウキョウ・ミタカ・フィルハーモニア音楽監督。1990年ブザンソン国際指揮者コンクール優勝。以来、世界各国のオーケストラに客演を重ね、国内外で数々の名演を残す。自ら結成したトウキョウ・ミタカ・フィルハーモニアとの活動は20年を超え、数々の録音も高く評価されている。オペラ指揮者としても活躍し、2011年夏にはサイトウ・キネン・オーケストラヘデビュー、バルトーク《中国の不思議な役人》で成功を収めた。2014年にオペラ《竹取物語》を作曲・世界初演、国内外で再演されている。2017年紫綬褒章受章。2022年4月より神奈川フィルの音楽監督に就任する。



撮影: Akiyo Yamamoto

松田華音[まつだ・かのん]／4歳でピアノをはじめ、6歳よりモスクワに渡り、E.イワノワ、M.ヴォスクレセンスキー、E.ヴィルサラーゼ各氏に師事、翌年ロシア最高峰の名門音楽学校、モスクワ市立グネーシン記念中等(高等)音楽専門学校ピアノ科に第一位で入学。エドヴァルド・グリーグ国際ピアノ・コンクール(モスクワ)グランプリ受賞他、多くのコンクールで優勝を果たす。国立アレクサンドル・スクリャービン記念博物館より2011年度の「スクリャービン奨学生」に選ばれ、2013年2月にはモスクワ市立グネーシン記念中等(高等)音楽専門学校で外国人初最優秀生徒賞を受賞。翌年同校を首席で卒業。

大阪フィルハーモニー交響楽団／1947年朝比奈隆を中心に「関西交響楽団」という名称で創立、1960年改称。創立から2001年までの55年に亘り朝比奈隆が音楽総監督・常任指揮者を務めた。大植英次音楽監督時代には「星空コンサート」「大阪クラシック」といった大型プロジェクトで注目を集め、2014～2016シーズンは井上道義を首席指揮者に迎え、「シヨスタコーヴィチ」交響曲第4番「交響曲第7番」「交響曲第11番」の録音で高い評価を得た。2018年4月、尾高忠明が音楽監督に就任。現在、フェスティバルホール(大阪・中之島)を中心に全国各地で演奏活動を展開している。

加藤訓子のアーティスティックディレクションによる
若手アーティストの支援・育成を目的とした
コンサートやワークショップ、公開講座

inc. percussion days 2022 in TOYOHASHI

「打楽器の真髓に触れる」

1月28日[金]—30日[日]

出演=加藤訓子(打楽器)、中所宣夫(能楽師)、
志多ら(和太鼓)、松田康介(打楽器)、
inc. percussionists 2022(篠崎陽子ほか13名)

会場=豊橋市民文化会館

INTERVIEW:4



のでしょうか。

加藤—『inc. percussion days』は3日間あって、テーマは「打楽器の真髓に触れる」。リサイタルもあればレクチャーや勉強会も行います。常に入れるのは「バッハを弾く会」。1曲でも、短いピースでも弾き合う場を作っています。バッハは万人の師。もちろん打楽器やマリンバでなくても参加できます。また、ゲストの演奏会や様々なジャンルの奏法に挑戦したり、いろいろやっています。

音楽の大きな宇宙観を目指してほしいということ、今、時間を費やすべき作品に出会ってほしいこと。あと、技術や気力とか精神力をきたえるために、最初に与えた課題がクセナキスの「プレイアデス」という曲でした。楽章ごとに、楽器の種類が分かれ、6人でやるオーケストラみたいな作品です。

これを2016年の時に、5年後の2020年の東京オリンピックを目指して、そこから『inc. percussion days』で勉強会をしてきました。そして2020年、ここぞと思った時にコロナになったのですが。それを利用して(忙しい若者に時間ができた!)セッションに切り替え、1年間に、3日間のセッションを大自然の中にある廃校などを使って5回やった後、2021年の6月に集大成の発表をめぐろパーシモンホールで公演しました。目をみはるほどの成長があり、本当にやったかいがあったと思いました。

豊橋では、今私たちができる『inc. percussion days』として、2021年の「プレイアデス」に参加した演奏家たちが来てくれ、皆さんにさまざまな打楽器の世界を体験してもらいながら、ある意味勉強し合うというか、私が彼らにいつもやっているセッションをそのまま音楽講座にしておみせします。

「プレイアデス」は、楽器の種類で6×3で18人でやるのですが、私が一応全部のパートを1人で全部やった映像を、2015年にPLATのアートスペースで見たいと思っています。そのことも皆さんに思い出していただきながら、実際に人間がやり、生でいろんな音が聞こえてきたらどんなことが起こるのか。難しく、大変な曲ですが、すごくベーシックなことでも音楽や楽器やフィジカルのこと、明快地に組み立てていく。すると、一般の人でもわかりやすい、ただ難しい音楽を聞かされるのではなく、その不思議な世界観も楽しめると思います。人が作ったことはその場では消えていくのですが、なぜ残っていくのか、それは素晴らしいものであるから。それを私たち演奏家がいい形で演奏して、残していく。加えて、「こんな楽器があったんだ」と、皆さんが楽しめるワークショップも組み込みたいと思っています。今回は各地から若手打楽器奏者のinc.パーカッションリストたちがたくさん参加してくれますが、今後はこの豊橋でもっと打楽器奏者が育ち、将来ここでinc.や「プレイアデス」ができたりしたらいいなと思います。

矢作— バリエーションに富んだ、講座的なものもあればワークショップ的なものから、演奏、リサイタルを含め演奏会的なものまで楽しむことができるようなプログラムを3日間やるということですね。楽しみにしています。

矢作— 加藤さんは豊橋出身で、ワールドワイドに活躍されていますが、パーカッションを始めたきっかけをまず伺えますか。

加藤— 小さいころからピアノをやっていたのですが、手が小さくて、弾きたい曲を弾けなかったのです。つらかった時にいろんな楽器を演奏する機会があり、初めてマリンバをやってみると、ピアノのつらさとは違い、体自体が躍動して、すごく楽しく、ピアノと打楽器の要素が一緒になって、なおかつ独特な響きがありました。翌日に先生を探して、楽器も買ってもらって、マリンバに没頭した。知れば知るほど独特な世界で、マリンバのために書かれた現代の作品に出会い、こういう世界があるのだと思い、高校生の時にはこの楽器をやっていることと決め、学校はほとんど休んで東京に通って、音大の準備をコツコツしていました。

矢作— として、大学に進んで本格的に演奏活動ということなのですね。

加藤— 大学では、クラシック音楽の歴史の大きさと、こんなにたくさん勉強しなければいけないのだと思いつつ、スネアドラムやティンパニーやトライアングルとか、大太鼓。一発をどう叩くのかという世界をどっぷり勉強しました。そして、マリンバの専科でソロ作品、その先にクセナキスとか、この世に残るべく現代作品の世界観を知り、その後海外に1人で行きだしました。

矢作— 豊橋で開催する『inc. percussion days』のような企画を始めたきっかけを教えてください。

加藤— 10年ぐらい前に、桐朋学園大学で3年間教えたのです。日本の音大は甘すぎるというか、1時間のリサイタルを張れるかと言ったら、どの楽器もそういう子が育っていないのです。ソリストになりたいとか、コンクールに出るならば、レポートもそろえて、リサイタル級なことできてなければいけないのに、体力や精神力がまったくそういうレベルにない。海外に行ってわかったのは、卒業する時には全員、リサイタルや、コンチェルトをする。音楽でやっていくしかないに限らずです。舞台では誰も助けてくれず、いくら震えても自分1人でステージに立つのですが、一度でもそれを経験すると非常に強くなり、腹が据わる。自分自身と戦うというか、突き詰めるという力を養う場があまりに日本には足りない。

リサイタルでも、ランチコンサートでも、たった1曲でも「人前で弾く」ことにより、どれだけの経験をできるか。その一度きりの本番のために、それぞれ頑張ってくる、それをさげだすのです。『inc. percussion days』のなかの「inc.リサイタル」は、通し1時間。初めてのリサイタル、readyであつてもなくてもぐいっと背中を押して舞台に立たせます。

私ができることは、ただ場を作ること。若い時に、楽器と演奏に集中して、どれだけの時間をかけるか、その準備が整ったら今度は場が必要だということで、協力してくださるホールに掛け合って始めたのが2016年の相模湖でのinc.でした。

矢作— 今回の豊橋のinc.では、どのような内容を行う

素晴らしいものを

いい形で演奏して、残していく。加藤訓子

打楽器

聞き手 矢作勝義 種の国とよはし芸術劇場PLAT芸術文化プロデューサー

加藤訓子[かとう・くにこ]／豊橋市出身。桐朋学園大学研究科修了後に渡欧、ロツテルダム音楽院を首席で卒業。国内外のグループへ参加後、グローバルにソリストとして活動。2011年第12回佐治敬三賞受賞。2013年第26回ミュージックペンクラブジャパン音楽賞最優秀録音賞受賞。2018年第73回文化庁芸術祭優秀賞受賞。次世代若手アーティスト育成を目的としたプロジェクトinc.を主宰、芸術監督として後進の指導に当たる。2021年度愛知県芸術選奨文化賞受賞、豊橋特別ふるさと大使、米国在住。

「若手音楽家に活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を提供する」というコンセプトのもと、オーディションで選ばれた、豊橋および三河地域にゆかりのある個性豊かな若手演奏家たちによる音楽のひとときをお届けする、プラットフォームコインコンサート。

若手音楽家育成事業

プラットフォームコインコンサート2021

ワンコイン(500円)で楽しめる、若手音楽家たちの上質なコンサート



2021年12月24日[金]14:00開演

波多野 董 [ピアノ]

「祈りと憧れ」

【出演者よりメッセージ】私たちがよりもずっと前から存在していて、たくさんの歴史や文化を見てきた作品たちはどこか人間離れしているように感じますが、もう少しの幸せに憧れて、祈って、当時を生き抜いた作曲家たちが生み出したものは本当に胸を打つものがあります。

今回は、夢見るような旋律や、軽やかに流れていくような響きが魅力的な曲、重厚感のある巨大な建築物のような曲など様々な要素の曲を集めました。

クリスマスイブの日に、明日の幸せを願って、美しい名曲たちを心を込めて演奏させていただきます。

【プロフィール】豊橋市出身。第34回 愛知ピアノコンクール 高校B部門 金賞。第22回 日本芸術センター記念ピアノコンクール セミファイナリスト。2021年度(公財)日本芸術協会 奨学生。これまでに山口智子、上野栄美子、西川秀人、伊藤隆之の各氏に師事。名古屋市立菊里高等学校を経て、現在、愛知県立芸術大学3年在学中。

質なコンサートをお気軽に楽しんでいただけるコンサートとして、2014年よりスタートしました。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によりオーディションを行うことが出来ませんでしたが、今年ついに復活し、魅力あふれる演奏家たちが揃いました。ぜひ瑞々しい音楽家たちにご注目ください!



2022年1月8日[土]14:00開演

こでまりデュオ

「チューバとピアノで巡る20世紀」

【出演者よりメッセージ】この度プラットフォームコインコンサートに初出演いたします「こでまりデュオ」です!私たちがチューバとピアノという珍しい編成で活動しています。オーケストラの縁の下の力持ち・でも実は幅広い音色を持つチューバの音を間近で聞くチャンスです。曲ごとに表情のガラッと変わるピアノにも注目です。

チューバとピアノの音色に乗せて20世紀の音楽を巡る、充実した内容でお届けします。仲良しデュオの個性ある演奏をお楽しみください。

【プロフィール】加藤由依子[チューバ]と磯谷莉佳[ピアノ]によるデュオ。2000年にそれぞれ愛知県碧南市・豊橋市で生まれ、愛知県立明和高校音楽科を経て現在東京音楽大学で学んでいる。加藤のダイナミックかつ歌心溢れる表現と、磯谷の繊細で美しい音色で紡ぐ音楽は、それぞれの個性が光りつつ絶妙なハーモニーを醸し出す。

2022年3月2日[水]14:00開演

山本愛花音 [ピアノ・作曲]

「Moment Of My Life

たとえば、あなたのその瞬間に寄り添う音楽を。」

【出演者よりメッセージ】自身の生誕20周年を記念し、「私の人生の瞬間」をモチーフにした自作曲によるピアノソロ・ミニアルバム「Moment Of My Life」をリリースしました。

今回のコンサートでは、アルバムにも収録した自作曲を中心に、カプーステン作曲『ピアノソナタ 第6番 Op.62 第1楽章』など、お客様の人生の瞬間に寄り添える音楽をお届けします。皆様のご来場を心よりお待ちしております。



【プロフィール】豊橋市出身。3歳より音楽を学び、ピアノ・作曲の道に進む。第1回ヤマハジュニアピアノコンクール・グランドファイナル第2位を受賞。2020年に自作曲「願い」の楽譜を出版。2021年2月に自主制作ピアノソロ・ミニアルバム「Moment Of My Life」をリリース。現在、東京音楽大学ピアノ創作コース3年生。武田真理、川上昌裕の各氏に師事。

2022年3月16日[水]18:30開演

Quintet Azalea

「アゼリア・ツアーへようこそ!

～音楽の旅路～

【出演者よりメッセージ】みなさんこんにちは、Quintet Azaleaです!今回のテーマは、【アゼリアメンバーと「音楽」を通して世界ツアーへ行こう!!】です。なかなか海外に行きづらい世の中ですが、今回は日本を出発地とし、音楽で世界を巡りましょう!聞き馴染みのある世界の音楽を、クラリネット五重奏で演奏すると果たしてどのような響きになるのか?!果たして無事に日本へ帰って来られるのか?!演奏もトークも楽しさいっぱいでお届け致します!

お楽しみに!



【プロフィール】西前菜々子[Cl.], 成田 萌[Vn.], 本間京[Vn.], 三浦可菜[Vla.], 稲田悠佑[Vc.]。2019年4月に結成。同年9月、愛知県立芸術大学内オーディションにより「室内楽の楽しみ」に出演。2021年4月、自主公演として「クインテット・アゼリア 名古屋・大阪巡回コンサート」を行う。バラエティに富んだ活気ある5人組で、クラリネット五重奏を世に広めることを目的に積極的に活動している。

辻 純佳 [ヴァイオリン] 2022年4月下旬にコンサートを予定しています。

【出演者よりメッセージ】11月24日に行ったコンサートでは多くのお客様にお越しいただき、音楽を通して皆さまと心を重ね合わせることができました。ヴァイオリンを始めて20年目の節目の年に、幼い頃から親しんだ豊橋市での演奏会を出来たことは、私にとってもこの上ない幸せな時間となりました。今後も聴衆の心に響く音楽を奏でられる演奏家を目指し、研鑽してまいります。次回2022年4月下旬にも更に心躍るプログラムをご用意し、皆様のお越しをお待ちしております。

【プロフィール】岡崎市出身。これまでに多数のコンクールで入賞。第45回藝大定期室内楽に出演。東京春音楽祭2019に春祭特別オーケストラとして出演。Festival Academy Budapest 2019修了。2019年度よりヤマハ音楽振興会奨学生。2020年より幸田町文化振興協会音楽宅配事業登録アーティスト。現在漆原朝子、玉井菜採両氏に師事。東京芸術大学大学院修士課程1年に在学中。





託児サービス対象公演

要予約。生後6ヶ月以上。
お一人様500円。お申込み、お問合せはプラットチケットセンターまで

チケットの購入・お問合せ プラットチケットセンター

●劇場窓口・電話0532-39-3090[休館日を除く10:00-19:00]
●オンライン<http://toyohashi-at.jp>[24時間受付・要事前登録]

U25・高校生以下割引で案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。
●料金=U25[25歳以下]:公演ごとに指定する席種の半額/高校生以下:1,000円●購入方法=各公演の一般発売初日から取扱い。●その他=本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。座席の指定はできません。要・入場時本人確認書類提示。一部例外あり。詳細は各公演チラシ・HPにて。

新型コロナウイルス感染症予防対策

●チケット販売=感染予防のため発売初日の窓口販売はなし。翌日以降残席がある場合は窓口販売あり。
※その他、最新情報は劇場ホームページからご確認ください。

二兎社『鵜外の怪談』



松尾貴史



瀬戸さおり



木野花

近藤芳正 Solo Work『ナイフ』



大阪フィルハーモニー交響楽団 特別演奏会



沼尻竜典(指揮)



松田華音(ピアノ)
撮影: Ayako Yamamoto

市民と創造する演劇『階層』



岡田利規
撮影: 宇山貴久子

豊橋アーティスト・イン・レジデンス ダンス・レジデンス2021 児玉北斗



撮影: Kim Saijk

2022/1/15 [土] 13:00 開演 **好評発売中**

2022/1/16 [日] 13:00 開演

1月15日のみ

二兎社『鵜外の怪談』

2014年に初演し、ハヤカワ「悲劇喜劇」賞、芸術選奨文部科学大臣賞を受賞した作品を新キャストにより再演します。

●作・演出=永井愛 ●出演=松尾貴史、瀬戸さおり、味方良介、瀧野右登、木下愛華、池田成志、木野花 ●会場=PLAT主ホール ●料金=[全席指定]S席6,000円、A席5,000円、B席3,500円、『ナイフ』2公演セット券[S席]8,500円ほか

2022/1/28 [金] -30 [日] **好評発売中**

inc. percussion days 2022

豊橋市民文化会館

in TOYOHASHI「打楽器の神髄に触れる」

豊橋出身のパーカッション奏者・加藤訓子のアーティストックディレクションのもと、次代を担う若手アーティストを支援・育成する企画inc.を開催。3日間で様々なコンサートやワークショップ、公開講座を行います。

●出演=加藤訓子(打楽器)、中野宣夫(能楽師)、志多ら(和太鼓)、松田康介(打楽器)、inc. percussionists 2022(篠崎陽子ほか13名) ●会場=豊橋市民文化会館 ●料金=ONE DAY PASS:3,000円

2022/1/29 [土] 18:00 開演 **好評発売中**

2022/1/30 [日] 14:30 開演

1月30日のみ

PLAT小劇場シリーズ

水戸芸術館ACM劇場/ラ コンチェン共同製作

近藤芳正 Solo Work『ナイフ』

●原作=重松清『ナイフ』(新潮文庫刊『ナイフ』所収) ●脚本・演出=山田佳奈 ●フィジカルコーチ=大石めぐみ ●出演=近藤芳正 ●会場=PLATアートスペース ●料金=[全席自由・整理番号付]一般4,000円、『鵜外の怪談』2公演セット券8,500円ほか

2022/2/5 [土] 16:00 開演 **好評発売中**

大阪フィルハーモニー交響楽団

ライブポートとはし

特別演奏会

●出演=沼尻竜典[指揮]、松田華音[ピアノ]、大阪フィルハーモニー交響楽団 ●会場=ライブポートとはし コンサートホール ●料金=[全席指定]S席一般5,000円、A席一般3,500円ほか

2022/3/3 [木] -6 [日]

市民と創造する演劇『階層』

—チェルフィッチュの(映像演劇)の手法による—

チェルフィッチュの主宰・劇作家・演出家の岡田利規と、舞台映像作家の山田晋平による新しい演劇の形である(映像演劇)の手法を活用した作品を、オーディションで選ばれた市民と共に創り上げます。

●会員先行・一般同時=2022年1月15日(土) ●作・演出=岡田利規 ●映像=山田晋平 ●出演=オーディションで選ばれた一般市民/米川幸リオン ●会場=PLAT主ホール ●料金=[日時指定]一般1,500円、U25 700円

若手音楽家育成事業

プラットワンコインコンサート

「若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を」と企画されたPLATオリジナルのワンコインコンサートです。500円で贅沢なひとときをお過ごしください。

●会場=PLATアートスペース ●料金=[全席自由・整理番号付]500円

12/24 [金] 14:00 開演

『祈りと憧れ』

波多野董(ピアノ)

2022/1/8 [土] 14:00 開演

『チューバとピアノで巡る20世紀』

てまりデュオ 磯谷莉佳(ピアノ)、加藤由依子(チューバ)

2022/3/2 [水] 14:00 開演

『Moment Of My Life』

たとえば、あなたのその瞬間に寄り添う音楽を。』

山本愛花音(ピアノ・作曲)

2022/3/16 [水] 18:30 開演

『アゼリア・ツアーへようこそ!~音楽の旅路~』

Quintet Azalea [クインテット・アゼリア] 西前菜々子(クラリネット)、成田萌(ヴァイオリン)、本間京(ヴァイオリン)、三浦可菜(ヴィオラ)、稲田悠佑(チェロ)



近藤芳正 Solo Work『ナイフ』

ワークショップ・レクチャー

2022/1/16 [日] 14:00 開演

ワークショップファシリテーター

養成講座2021[後期]

『まちを知る、考える』発表会

ワークショップファシリテーター養成講座の受講生が、豊橋の人や場所を取材し、そこで出会ったことに焦点を当て、短い演劇を創り上演します。劇場の中に広がる小さな豊橋をご覧ください。

●出演=ワークショップファシリテーター養成講座[後期]受講生 ●監修=すぎきこーた、柏木陽ほか ●会場=PLAT創造活動室A ●料金=無料 ●定員=40名程度(申込順) ●申込方法=①プラットチケットセンター窓口・電話(0532-39-3090) ②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

豊橋アーティスト・イン・レジデンス

ダンス・レジデンス2021

児玉北斗

北米やヨーロッパでダンサーとしてキャリアを積んだのち、現在関西を拠点にダンサー・振付家・ダンス研究者として活動する児玉北斗。豊橋で滞在制作をおこなったのち作品の試演会をおこないます。1月23日にワークショップを開催予定。詳細はホームページをご確認ください。

2022/1/22 [土]

稽古場公開&トーク

滞り制作の稽古場を公開します。創作過程や作品の解説をおこないます。ぜひ気軽にお越しください。

●会場=PLAT創造活動室A ●参加費=無料 ●申込方法=①プラットチケットセンター窓口・電話(0532-39-3090) ②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

2022/1/29 [土] 14:00~17:00

成果発表会(作品試演会)

入退場自由に観覧できる形式で3時間にわたるダンスパフォーマンスをおこないます。お好きな時間にお越しください。

●会場=PLAT創造活動室A ●参加費=無料 ●申込方法=①プラットチケットセンター窓口・電話(0532-39-3090) ②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

News

プラットチケットセンターオンラインシステム サーバ移行にともなう作業と メールマガジンのメールアドレスの 変更及びチケット購入画面URLの変更

11月10日より、システムサーバ移行に伴い以下の通り、変更をいたします。

変更内容

1 配信メール(メールマガジン、予約完了メールなどのメールアドレス変更)
●新アドレス plattoyohashi@e-get.jp

(送信専用のメールアドレスから配信します) 迷惑メール/受信拒否設定をしているお客様は上記アドレスが受信できるよう設定をお願いします。会員登録をされている方で、11月10日以降メールマガジンが届かない場合は、迷惑メール設定が機能している可能性があるため、ご確認ください。

2

チケット購入ページ、マイページ等のURL変更
今後は、下記QRコードのURLへブックマークを変更していただくようお願いいたします。



チケット予約購入



会員マイページ

「アレ、があぶり出したもの」

芸術文化アドバイザー
桑原裕子



数ヶ月をかけて取り組んだ劇団公演の終了後、私はすっかり、しょげかえていた。

この「しょげる」というのが果たしてほんとうに今の感情に即した表現なのか、辞書で調べてみた。「前向きな気持ちがあられるさま」……確かにそう。類語には「心が折れる」「打ちのめされる」とある。「失意の底にある」こまでいくと大げさだが、「挫折感を味わう」……そうなのだ、謎の挫折感。一体これはなんだ？ 大きなプロジェクトをやりきった後に、それまでの緊迫感やエネルギーが尽きて脱力した経験は誰にでもあるだろう。演劇は商業演劇や小劇場、パジャットが大小様々ながら、気軽にやるということはできないジャンルだと思う。だから劇団がどんなに小さかった頃でも、いわゆる「燃え尽き症候群」というものは幾度となく体験してきた。

しかし今回の感覚はそれとも違う。仲間に出たいと恋しさが募る“ロス”の類いでもない。なぜだろう、説明出来ない空しさと疲労感がドドドと押し寄せてきたのだ。

としてこの謎の挫折感を抱いているのはどうやら私だけでもないようだった。公演を終え二週間ほど経ったあたりで劇団員たちと個別に話してみると、皆どこか「しょげて」いた。

理由のひとつには、お金がないということ。これはわかる。稽古が始まってから数ヶ月、ろくにバイトも出来ないため公演後に皆すかんぴんになるのは哀しいかな小劇場の現実。ノルマこそないが充分なギャラも出せない、劇団主宰側としてはなんとかこの状況を変えたいものの、なにせ今は客席数が半分になったり公演中止を迫られたりするご時世でもあるから、ない袖は振れぬどころか、ない袖がさらけ切られて二の腕丸出しキャミソール状態。しかし、それでもやろうと覚悟して臨んだ公演ではなかったか？

ほかの意見に、作業が多すぎる、メンバーとの連携が取れない、とにかく疲れた、など。

これには少々、憤慨した。劇団でスタッフワークを担うのは当たり前では？ 飲み会や食事会は無理、ミーティングさえ密を思えば催しづらいのも織り込み済みだったはずでは？ それでも連携取らなきゃでしょ。疲れた？ 誰だって疲れてるよ！

……しかし憤る私の肩を、ちょんちょんと後ろから叩く者がいる。振り返ってみるとそれは、私だった。私は私に言う。「あんたも同じこと、考えてたでしょ」

そうなのだ。自分の中の鬱屈が、こだまのように周囲からも飛んできただけなのだ。でも、今まで乗り越えてきたはずが、なぜ一斉にしょげてしまったのだろう。

私は不意に悟った。ああついに、私たちがものにも、アレがやってきたのだ。忌まわしい、口にするのも嫌なあいつ。その正体とはズバリ……「コロナ疲れ」。

この一年半、劇団KAKUTAはコロナ禍であつても通常通りであろうと、四本の芝居を打った。どれほど生活に歪みが生じて、演劇界全体が疲弊している時でも、我々は動きまっせという姿勢。それは大げさに言えば「演劇の灯を絶やすな」ということなのかもしれないけれど、実のところそれは世のため人のためではなく、あくまでも自分たちがこの現実には勝りたいという意地だったのかも知れない。

先月興行した劇団公演は、ゲスト俳優を招かず劇団員だけで行った舞台だった。何もかも自分たちでまっとうしてみせるという気概はものすごくあったし、実際にやりきった自負もある。だけど、息継ぎすることを忘れていた。前回は「犬」をテーマにした舞台だったが、それこそ犬がハアハアと舌を出してあえぐ様な感じで、鬱憤や疲労が募っていても誰も口が出来ぬまま、干からびた舌を無視して走り続けてしまった。

役者がスタッフワークをこなすこと、お金がなくなること、生活を犠牲にして芝居をやること。

これらは、まったく当たり前のことじゃない。それでもやってきたコロナ以前が奇跡だっただけ。しんどくても打ち上げひとつでチャラにしてきた、それ自体が普通じゃないのだ。私たちはもっと普通じゃない自分たちを認めて、労い、讃えて、休ませ、栄養を与えなくてはいけなかった。

コロナ禍は人の本性をあぶり出すと誰かが言っていて、私はなんて嫌な表現だと常々思っていたけれど、今回はこうべを垂れて頷くしかない。人が本来あるべき姿、当たり前というものの正体があぶり出されたのだから。

というわけで先日、久しぶりに劇団員が集めて反省会をした。稽古以外に正面で向き合うのは実に一年ぶり。目的なく仲間と語り合う時間など思えばまったくなかった。それぞれ言いたいことを言い、初めはけっこうギスギスした。会議室の閉鎖時間になっても話が終わらず、飲み屋の個室に移動した。(どこかで密を責めないで欲しい。皆マスクをしていたし、もちろんドンチャン騒ぎもしていない。会議室と変わらない状態。政治家は皆こうして会食の言い訳をするが、私たちは本当にそうなのだ)。

結局、反省会で出た様々な課題が、すぐに解決とはいかなかった。まずは休まなくてはという、身も蓋もない結論になりそう。

だけど久しぶりに演じる役を通さないおたがいの顔を見て(もちろんマスク越しに)、帰る頃には私と同じく、みんなもどこかホッとした表情をしていた。

演劇は万能ではない。不安定で不完全なバランスで、奇跡的に成り立っている。

だからこそ尊い……なんてきれいな事はない。すぐに走り出せる体力もない。

だけど、いいじゃない。それがしょげてる顔でも、ちゃんと見えたのだから。

撮影：相川博昭

SUPPORT

知識製造業
三遠機材株式会社
http://www.san-en.co.jp

Gallery 48
呉服町48 TEL.54-4848

有限会社 魚伊
電話 52-5256

株式会社 竹尾建築設計事務所
代表取締役 竹尾 誠
豊橋事務所/豊橋市平川南町91-2 千440-0035 Tel.0532-62-1331(代) Fax.0532-62-1332
浜松事務所/浜松市東区流通元町13 千435-0007 Tel.053-422-3628(代)

グロリアンピアノ地域特約店
白羽楽器 株式会社
電話 053-464-3015

竹内産婦人科
産婦人科 婦人科 (不妊治療)
豊橋市新本町23 (豊橋市西産婦人科) 053-52-1111

ケンチク 701
KURONO ARCHITECT STUDIO
y.qlo170@gmail.com

うつ、統合失調症、精神遅滞、発達障害、脳梗塞、人工透析、人工関節など
豊橋・豊川障害年金相談センター
初回相談無料 ☎0120-891-498
豊橋市上野町字ノ上21-8 アイネSD2 障害年金専門社会保険労務士 竹下英司

看板広告 アラキスタジオ
豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本と文具なら
精文館書店
TEL.54-2345

ONOCOM なければつくる
株式会社オノコム

外科・内科・胃腸科・麻酔科・肛門科
医療法人栄真会 伊藤医院
豊橋市小池町字原下35 電話45-5283 (代)

創業文政年間 数きく宗
豊橋市新本町40 電話52-5473番

調理と製菓のおいしい資格。
豊橋調理製菓専門学校
豊橋市八町通一丁目22-2 TEL.53-2809

豊橋銀行協会 (順不同)
三菱UFJ銀行 みずほ銀行 静岡銀行 名古屋銀行
三井住友銀行 三井住友信託銀行 清水銀行 第三銀行
十六銀行 愛知銀行 中京銀行 大垣共立銀行

創業江戸 喫茶菓子専門店
若松園
御菓子司

西村能舞台
豊橋市上伝馬町
代表=西村 隆二
Mail=nnbutai@gmail.com

気まぐれコンサート
事務局/0532-62-9259 (小川恵司)

安心・安全な地下駐車場
パ-ク500
ソウの親子の
電話が毎日
プラット主ホール・アールスペース公演等へのお客様は
30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・麻酔科
医療法人 塩之谷整形外科
理事長 塩之谷 昌
豊橋市植田町閑取54 電話 0532-25-2115(代)

豊橋名産 傘あくわ

井上皮フ科クリニック
診療時間 月・火・木・金 10:00~13:00 16:00~19:00
土 10:00~14:00 休診日=水・日・祝
電話 0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字畑13-1マイルストーン1F

プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。
共和印刷株式会社
豊橋市小池町36番地の1 TEL.46-3281 FAX.46-3285

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科
医療法人 大岩整形外科・皮フ科
院長 大岩俊久 豊橋市大橋通二丁目115 電話55-2100

伝統的工芸品豊橋筆
書道用品専門店
高誠堂
豊橋市呉服町四拾四番地 電話52-5514

ISO9001 ISO14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得
株式会社 三光製作所
三光精密工業株式会社
豊橋市佐藤一丁目12番地の3

生活にファインクオリティ
sala

広告募集

TICKET CENTER

チケットの購入・お問合せ

プラットチケットセンター
電話・窓口
0532-39-3090 [休館日を除く 10:00-19:00]
オンライン
http://toyohashi-at.jp [24時間受付・要事前登録]



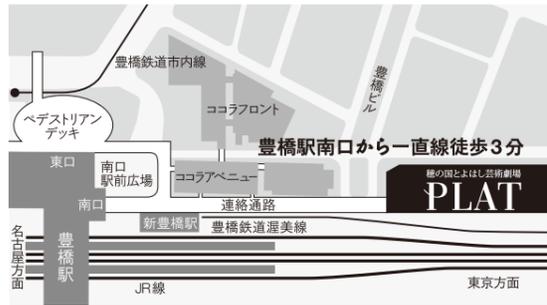
プラットフレンズ募集
入会金・年会費無料

- 特典
- 1 公演情報をメールでご案内します。
 - 2 インターネットでごチケット予約ができます。
 - 3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。
- ※劇場窓口またはホームページから登録いただけます。

U25・高校生以下割引ご案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。

- 料金
U25[25歳以下]:公演ごとに指定する席種の半額
高校生以下:1,000円
- 購入方法
各公演の一般発売初日から取扱い。
- その他
本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。
座席の指定はできません。要・入場時本人確認書類提示。
一部例外あり。詳細は各公演チラシ・HPにて。



〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
電話=0532-39-8810[代表]
開館=9:00-22:00 休館日=第三月曜・年末・年始。
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。
豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、
新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、
お近くの公共駐車場等をご利用ください。

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT